

河 奴

か やっこ

36号

令和6年11月

京都大学カヌー一部 OB・OG会

OB・OG 寄稿文

ご挨拶と今後の OB・OG 会活動について	小山 泰弘	— 1
「高木公三郎先生との思い出」	熊本 水頼	— 5
現役諸君、練習中は帽子を被ろう。	後藤 洋三	—12
2002 年琵琶湖周航の（怖かった）思い出	新居田 歩	—14
琵琶湖周航の安全対策	小山 泰弘	—19
1990 年代に寄贈いただいた艇のこと	小山 泰弘	—22
ストレッチャー考と C2・C4 必勝 (?) 法	小山 泰弘	—24

現役寄稿文

主将挨拶	主将 山広 健生	—27
主務挨拶	主務 森 咲弥	—29
カヌー部が大好き	藤本 航成	—31
カヌーとの出会い	岡安 晴信	—31
部員紹介		—33
戦績報告		—39

編集後記

水嶋 勇、小山 泰弘	—41
------------	-----

ご挨拶と今後の OB・OG 会活動について

小山 泰弘（1986 年卒）

ご挨拶

2023 年の年末、前会長の西村さんからのご連絡があり、会長を引き継いでもらえないかとのお話をいただきました。これまで幹事なども担当しておりませんでしたので、初漕ぎや新年会、ドン・ドッジ・レガッタ*といったイベントがあればただ参加させていただくだけの立場でしたが、会長を引き受けさせていただくとなるとはたしてその役割を果たせるのかの確信は持てませんでした。ですが、現役部員のみなさんの活動を微力ながら支援できるようにしたいという気持ちがありましたので、あまり気負わずに引き受けさせていただくことにいたしました。幸い、新しく宮川さん、新居田さん、白波瀬さん、塩川さんに役員を引き受けていただくとともに、大西さん、保志場さん、水嶋さん、久保さん、江盛さん、岡本さんに役員を継続していただきましたので、みなさんと力を合わせて OB・OG 会の活動を進めてまいりたいと思います。諸先輩をはじめ、OB・OG 会の会員のみなさんのご協力をよろしくお願いいたします。



2023 年 8 月 27 日 インカレ JC-1、2 位と 3 位のダブル表彰台!!

※河奴第 6 号の熊本先生の表記に合わせて、私の文章中では今後「ドン・ドッジ」と表記するようにいたします。

今後の OB・OG 会活動について

OB・OG 会の役割をあらためて考えますと、まず現役部員から期待されるのは金銭的な支援ではないかと思えます。周りを見渡しますと、カヌー部にとってお隣のボート部の OB 会では、現役部員の活動支援として年間 1,700 万円を目標として寄付を募っているそうです。片や京大カヌー部 OB・OG 会が 2023 年度に支援した金額は 100 万円。これでも OB・OG 会員の数が増えた分、昔よりはかなり大きな金額になってきています。私が現役だったときにはそういった活動費の支援をいただいたことは記憶にありません（思い違いでしたらすみません）。ただ、現在名簿にお名前のある OB・OG 会員は 360 名いらっしゃいます。このうち、会費・寄付をお送りいただいているのが 46 名（2023 年度）しかいらっしゃいません。まずはこの状況を改善し、より多くの会員のみなさまに広くご支援いただくようにすることが大事かと思っております。そのため、今年度から、クレジットカードや銀行口座からの自動振り込みの手続きをお願いすることを総会で提案して承認いただきました。過去の河奴によると、これまでも何度も会費の納入状況改善を目指して自動振り込みの導入が検討されてきたものの、なかなか実現できていなかったようでしたが、株式会社メタップスペイメントが運営する「会費ペイ」というサービスを利用することで実現できることがわかりましたので、役員会で検討のうえ、導入することといたしました。2024 年度の会費はすでに自動振り込みを完了してしまいましたが、まだご登録をお済ましでない会員の方は、以下のフォームからご自身のメールアドレスを入力して、登録手続きをお願いいたします。年会費は、通常の会員の場合は 5,000 円で、学生および定職による収入のない会員の場合は 1,000 円です。2025 年 5 月までにご登録を完了いただければ、2025 年度の年会費から自動振り込みが行われます。

会費ペイ（年会費自動引き落としサービス）申し込みフォーム

https://www.kaihipay.jp/forms?form_code=0321215776810638

年会費の自動振り込みサービスの利用は、ご自身の記憶があいまいになって支払ったかどうかわからなくなってしまうようにすることに加え、会計担当の事務負担軽減にもつながります。一度登録すると、毎年自動的に支払いをしていただくことができますので、ぜひともご登録いただきますようにご協力をお願いします。また、寄付については、引き続き OB・OG 会の銀行口座にて随時受け付けます。集まった会費と寄付金は、現役部員の大会遠征費の金銭的な支援に充てるとともに、転覆の際に艇が沈んでしまわないようにするための浮力体やガスボンベ式の救急救命具を寄贈するための費用として使用したいと考えています。寄付のご協力をいただける方や、会費ペイで 2025 年度からの自動引き落としの登録をしていただいた方の 2024 年度分年会費未払い分のご協力をいただける方は、以下の口座で随時受け付けておりますので、ご協力をお願いいたします。

未支払いの年会費と寄付の受付口座

三井住友銀行 堺支店 普通 4074499

京都大学カヌー部 OB・OG 会 会計 青木 梓

ただ、単に現役部員の活動を金銭的に援助するだけが OB・OG 会の役割とも考えておりません。OB・OG 会の会員の交流や相互の親睦を図るような楽しいことも企画していきたいと考えています。まずはその一つとして、6月15日(土)に Zoom を使ってオンラインで現役部員のみなさんと OB・OG 会の交流会を実施しました。4月以降の勧誘で入部した新入部員を含めて現役部員のみなさんに自己紹介していただき、その後、新生の息吹と琵琶湖周航歌の合唱で 2024 年シーズンの大会で日ごろの練習の成果を発揮するように激励しました。来年度以降も新入部員が加わったあとの夏のシーズンの試合前にこのような交流会を企画したいと考えておりますので、多数の OB・OG 会のみなさまのご参加をお願いします。

また、現役との交流の第二弾として琵琶湖周航の最終日の 9月8日(日)、現役部員と一緒に琵琶湖を漕ぐ「琵琶湖プチ周航」を実施しました。現役のみなさんは、今年、9月4日(水)から8日(日)にかけて、2018年を

最後に途絶えていた琵琶湖周航を6年ぶりに復活させてくれました。その最終日、琵琶湖プチ周航と銘打ってOB・OGで集まり、堅田の浮御堂の少し南にある公園から瀬田の艇庫までの最後の区間を一緒に漕いでゴールを盛り上げました。来年度以降も、このような企画でOB・OG会のみなさんの旧交を温めつつ、現役部員のみなさんとの交流を図ることができればと思う次第です。こういったイベントにご参加いただける方、お手伝いいただける方、ぜひご連絡ください。よろしく申し上げます。

(2024年5月初稿、9月改稿)



琵琶湖周航最終日 & OB・OG会琵琶湖プチ周航 (2024年9月8日)

「高木公三郎先生との思い出」 熊本水頼（名誉会長）

副会長の水嶋です。熊本先生は今年八月に九十八歳になられました。頭脳は相変わらず明晰でいらっしゃいますが、昨年来、闘病生活を送っておられ、体調は十全とは言えない状況です。OB・OG 会が新体制になってから初めての河奴に寄稿をいただこうと思っておりましたが、ご自身で文章を書かれることが難しいことから、水嶋が聞き取りする形をとらせていただきました。高木公三郎先生からカヌー部の部長を託された当初から、草創期の京大カヌー部、艇庫の建て替えに至るまで、貴重なお話しをうかがいました。

Q) 先生、早速なんですけど、高木先生のことをきちんと先生のお言葉で残していただきたいなと思って今日うかがいました。カヌー部の引き継ぎの時に高木先生から、くれぐれも事故を起こしてくれるなよということをおっしゃられたということでしたよね。

熊本) 高木先生に京大に引っ張られた時に、高木さんの仕事（注・天文学）を手伝うんだと思ったんです。そうしたら、「あんた電気制御をやれ」と。必ず将来、電気制御はカヌーを語るにしても何にしても必要になる。僕のどういうところを買ってくれたのかわからんが、高木先生の仕事の手伝いではなくて、お前は電気制御をやれ。それで僕としては（研究者としての）方向づけができた。

当時は東京オリンピックの直前だったので、「あんたはそのかたわらカヌーを勉強しろ」と。高木先生のカヌーの行事なんかにはうんとくっついて回って、いろいろ勉強させられました。カヌー部発足のときには、「熊さん。お前部長やれ」と。「部長をやんなはれ」やな、京都弁では。それで「けが人出すなよ」と、この一言。

わたしは覚悟はできていましたから。周囲を見渡しても、まあまあ（他に

はいなかったから)ね。それが一つの転機やな。

そうするとね、当時あんまり漕いだ経験のあるのはいないわけや。京大でやってる人間はいましたけれども、やっぱり同好会程度。そこで後藤(元OB・OG会長)を捕まえた。あれはラグビー部に入ってる程度で規律とかそういうものを知ってるというので、後藤を口説いて、それは非常に大きかったんだろうと思うね。

カヌー部というのは京都大学にとってはちょっとユニークな存在で、今から考えても多士済々だった。

Q) 先生は当時何歳ぐらいだったんですか。

熊本) 何歳だろうね。60年前だから30代後半だね。

Q) 高木先生とはその後、カヌーの指導について何かやり取りとかあったんですか？

熊本) カヌー部の指導なんていうことは、おっさんからは一切ない。おっさんからは「けが人出すなよ」その一言。けど高木先生と一緒にした行動が全てやね。私はよう付いて周りしましたよ。

Q) 今の艇庫の場所ももともとはボート部の場所だったんですよね。

熊本) ああ、あれは高木先生の策略かも知れんのだが、ボート部の艇庫が移転する時に、故意かどうかわからんけど、偶然ワンスパン短かかった。そうするとエイトが入らん。(注・結果的に、カヌー部がその場所に艇庫を置くことになった)。「熊さんなあ、この事情、知ってる人間はそのうちに消えてしまうから」と。この人のやることは違うわい、と(思いました)。

(注・高木先生は現役時代、ボート部のマネージャーをされていたこともあり、ボート部とは縁が深い)

Q) それが建て替え前の艇庫ですよ。

熊本) あれでよくみんな頑張ったもんだね。ところがボートが入ってたところにカヌーが入る。(間尺が合わないから) 棚を作らないかん。工具やら木材の端くれやらは、これはみんなが桑野造船から運んでな。

Q) 桑野造船にも頭上がらないですね。

熊本) 大きな工具なんて持ってないからそれも借りてね。あれでカヌーの艇庫らしく立派なものことができましたね。しかしあれは全部、部員が(手作りで) やってるからね。

中に入れる艇は、京大はちよっぴりなんだよ。武庫川女子大とか、関学も艇を置いてた。瀬田で練習してたから。で、時々(京大の) 学生部が点検に来るわけ。「先生、うちの艇は少ないじゃないですか。京大の艇庫なんだから、よその艇で占領してしまうのはいかがなものか」なんてね。それで「カヌーレガッタっていうのは相手があって成立するもので、京大のカヌー一部が伸びるとともに、よそも伸びてくれないければレガッタは成立しない」と(言ってやった)。どこの大学も艇庫がないときやからね。まあ、そんなやり取りもありました。

Q) 関学も武庫川女子も、兵庫県の大学じゃないですか。だけど、練習は瀬田川でやってたんですか？

熊本) (川としての) 武庫川なんか(練習には) 使えなかった、あの頃は。彼らも瀬田川によく練習にきたもんですわ。

感激したのは、関学の(創部) 50周年に呼ばれていったらね、10人ぐらいOBの古いところが並んで、一斉に「僕たちは京都大学カヌー一部卒業です！」そういう挨拶を受けた。あれはやっぱ感激だね、こっちも。

Q) 向こうも京大の艇庫に船を置かせてらえたから練習ができたという感

謝の気持ちを持ってたわけですね。

熊本) そして彼らもやっぱり一番最初はね、高木先生を頼ってきてるんです。

武庫川なんかは生物の先生が高木先生と仲良しで。関学が一番古いところは新聞か何かで見て、高木先生頼ってきて。

Q) 全然、直接のツテもないのに新聞を読んで高木先生のところに転がり込んできた、そんな感じですか。僕らが記録で存じ上げている関学の初期のOBの方というと、やっぱり紅林さん。関西の3連覇とかされているじゃないですか。

熊本) 紅林よりもっと上の世代だな。

Q) 結局、初代の艇庫は何年ぐらい使われたんですかね？

熊本) ちょっと計算できんな。

Q) 建て替えた時は、まだ高木先生お元気でしたよね。艇庫の看板の文字も高木先生の筆跡ですよ。

熊本) そう聞いているね。建て替えの前後、カヌー部は京大の中でも非常に人脈が濃かった時期。学長の沢田さんや学生部長など、私たちと本部が関係の良かった時代だね。それで話がとんとん拍子に(進んだ)。大学でも人脈ってのは財産だな。

Q) 医学部のボート部と一緒に入っていたじゃないですか。その経緯はどういうことだったんですか？

熊本) 学生部長が医学部で法医学をやっていた。それから整形外科の先生が

ボート部長。そういう関係で断り切れないわけです。

Q) 先生もカヌー部の部長は 30 年ぐらいされたということですよ。30 代の後半から退官までですから。

熊本) 何年って勘定したことない。

Q) 先生は京大のカヌー部の部長だけではなくて、学連の会長もされてたじゃないですか。そういう意味では関学の方が京大カヌー部卒だと言ってくださるのと同じぐらいというか、もっと広い意味で学生カヌーをずっと見守っていただいていたと思うんですよね。学生自治ということも先生、常々おっしゃっていて、そこを支えていただいたというのはすごい大きいことだなと思っているんです。

熊本) 学生連盟はむしろ後の方で、その前にオリンピックの強化合宿があって大正大とかね、慶応とか関学も、ここの近くで合宿したこともある。そうすると夜はウチで飲んでるわけだ。そういうつながりで思わぬところで思わんやつに会うんだよ。

ローマで国際会議をやる前年に視察に行った。そこで日本食やってるとなにか聞いていたら、高島屋が店を出してるっていう。そこで飯食おうかって行ってみたら、来たウェイターが「京大の熊本先生じゃないですか」と声をかけてきた。びっくりしたら「私、慶応でカヌー漕いでました」、と。そんな出会いもあった。

それから学連でボートを購入する時に業者を介するとどうも、ある程度ピンはねされるわけだ。相談を受けたので、どうなるかわからんけども商社に電話しようかという話しになった。電話したら受話器とったやつがやはり慶応の OB でね。

だから学連としてやる前の OB の古いところと縁が深いわけだな。商社に電話した時も、先生のところでも飲みましたという話が出て。飲んだ話しか出てこんのやけど (笑)。

Q) それはそれだけ（先生のお宅が）居心地がよかったってわけじゃないですか。

熊本) しかし、よう飲みましたな（笑）

Q) ドン・ドッジ・レガッタを京大で引き受けることになったじゃないですか。

熊本) 引き受けるというよりも創設したんだ。

Q) もともとは先生がカヌー連盟に持ちかけたんですよね。

熊本) いや、それはしなかった。当時のカヌー連盟というのは、あんまり肌が合わなかった。

Q) 先生が、以前おっしゃっていたのは、カヌー連盟が大人の事情だけで大会の日程とかを決めていたと。選考のレースなんかでも、学生が前期の試験がある時期に大会を組まれると、学生って参加しにくいじゃないですか。そういう配慮のないことをされたということをしごく怒ってらっしゃったのを覚えているんです。

熊本) それとかいろいろあったからからな。

だからドン・ドッジもこれからある時期、関西の学生カヌー連盟でドン・ドッジを引き継ぐとか、それも必要になってくるんじゃないかと。というのは、一つは大学としてね関学、武庫川は大学側がサポート態勢、きちんとしてるんだよ。ところが立命、同志社そういう態勢が、きちんとしてない。そうするといろんな意味で学生の危機管理が徹底しないところがあるだろう。それから、この際、京大も含めて、大学側の運動部の関係ね、もう少し仕切り直してきちんとやっていく、それが非常に大事じゃないかと思うね。

Q) カヌー部との付き合いは本当に先生の人生の半分以上だと思うんですけど、一番何か思い出深いことって何ですか？

熊本) カヌー部で一番、思い出深い…。どれもこれも大事だからね。どれと言ってないけど、カヌー部長、この部長職を任されたってのは僕にとっては一番勉強になったと思ってますね。

Q) 勉強になったっていうのはどういうところですか。

熊本) 安全管理のことだね。私もネイビーの端くれだから。学生時代から言われたけどね。人を預かるという時に、高木さんの「けが人出すなよ」、この一言が一番大きいだろうね。その時にね。たどり着いたのが「板子一枚 下は地獄」という言葉で。

Q) 幸い京都大学のカヌー部ではそういう重大な事故はなかったですけども、でもやっぱり先生が口酸っぱく学生に普段からおっしゃってたからじゃないかなと思うんです。

熊本) そういう評価ができるようなことはやってないけども、自然にそうなったのかな。

京大のボート部ではいくつか大きな事故があった。それからラグビー部でスクラムが崩れて死んだ事故もあった。特にラグビー部の時には、部長は総長になる前の西島だった。で、その時に西島やら大学当局と、ご父兄の間で大変なやりとりがあったんだが、父兄から「息子は自分の望みとする京都大学に入って事故にあった。京都大学で入れたということで満足してると思います」そういう言葉が出てきたんだな。西島なんかはそう思ってくださったことを非常に大事にしましたよね。だから、何かことがあった時、大学として部として、どういう対応ができるのか、それはやっぱ、特に気をつけて考えていかないかんと思ってやってきた。

(2024年10月)

現役諸君、練習中は帽子を被ろう。

昭和 40 年卒 後藤 洋三

20 年ほど前のこと、頭のとっぺんに小さな突起ができた。初めてのことで近所の総合病院に行った。ずっと後のことだがコロナを罹った志村けんが担ぎ込まれたとかいう病院である。皮膚科の女医さんに、頭の中から何か浸みだしていると訴えたところ、けらけらと笑い、老人性イボですと言って相手にしてくれない。仕方なく引き下がったが、女医さんの笑いが効いたのか、イボは小さくなって気にならなくなった。

それから 10 年ほどたってまた頭のとっぺんに突起ができた。次第に大きくなるし、髪の毛が薄くなっているの、見栄えに係わる。それで今度は、笑いそうにない爺さんの町医者に行った。ルーペで突起をしげしげと観察し、これは老人性のイボですと診断した。取れないのかと言ったら、魔法瓶のようなものを取り出し、長めの綿棒に中の液体を浸してイボの先端にちょんちょんと塗り付けた。そのとたん、頭のとっぺんに激痛が走った。なんと表現すればよいか、火のついたお灸を裏返して押して付けたというか、体中の痛みが頭のとっぺんに集中したような激痛である。何を付けたのか聞いたら液体窒素だという。こんなに痛いのなら先に言ってよとぼやいたら、少し笑って半日ほど我慢してくださいという。その半日が過ぎると痛みは消え、3 日ほど過ぎるとイボがぼろりととれた。液体窒素でイボを壊死させる標準治療らしい。

さらに 10 年ほどたった今年になって、イボが頭皮のあちこちに同時多発してきた。反比例して髪の毛が薄くなっているの、放っておけない。今度は少し近代的な装いの皮膚科の病院に行った。また女医である。数が多いので液体窒素を塗りたいと思ったら悶絶死してしまうと恐れていたら、何やらスプレーのようなものを使ってイボに液体窒素を吹きかけていった。医療技術が進歩している（昔からあったかも？）のだ、前回ほどは痛くない。ただし一度に大量掛けると周りの皮膚が傷つくので 1～2 週間おきに数回掛ける必要があるという。現在 5 回目を過ぎてこんなもんですね、と

いうところまで来た。完全に無くならないが、目立たなくなった。

ところで、なぜイボができるのか、頭の洗い方か、栄養バランスか、と聞いたらそんなことも知らないのか言いたげに、紫外線ですと断言した。なら帽子を被ればいいのかと聞いたら、積分値ですから、と言う。私の場合、歳を自覚して根治はあきらめろ、ということらしい。

私は汗かきで帽子が嫌いだった。それで帽子を被らずに屋外活動することが多かった。胸を張って言えるほど長時間練習をしたわけでないが、カヌーの部活が積分値の一部になっているのは確かである。

それで、この駄文の結論である。現役諸君、練習中は帽子を被りなさい。さもないと50年後に液体窒素を浴びることになる。痛いですよ！

(2024年5月)

中途半端な余白が残ったので駄文を続ける。実はこのイボ治療の最中に、頬にできたニキビ状のものを診てもらった。またルーペを取り出してしげしげと観察、皮膚がんの可能性が高いので大病院で診てもらいなさい、という。大病院に行くと、細い筒を頬に打ち込んでサンプルを取る検査の末、皮膚がんとの宣告、良性で転移の恐れはないが放っておくと次第に大きくなるという。そういう言い方はしなかったが、余命との相談で、放っておいてお岩さんになるか切り取ってフランケンシュタインになるかの選択だという。私は未だ長生きしたいと言ったら、フランケンシュタインですね、ということになった。日帰りで済む手術であったが、手術は手術、ベッドに寝かされ、部分麻酔の注射を打たれ（これが痛い）、目隠しと鼻栓をされて、1時間以上の我慢となった。命にかかわる手術でないせいか、医師の方は看護師と関係のないおしゃべりをしながら施術している。膀胱が貼ってきてもう限界と思った時に手術は終わった。皮膚がんを発症した原因を聞いたら、紫外線だという。ただし今回は積分値とは言わなかった。

どの程度のフランケンシュタインになるかはまだ確定していない。

(2024年9月)

2002年琵琶湖周航の（怖かった）思い出

新居田 歩（2001年卒）

京都大学体育会カヌー一部関係者の皆様、大変ご無沙汰しております。2001年卒業の新居田です。ここ数年、引っ越し、結婚、転職などでごたごたしているうちにOB会から離れてしまっておりました。この度、ひよんなことから小山さんにお声をおかけいただき、OB会の幹事を担当させていただくこととなりました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

3月末の総会において現主将の山広さんから、今年は琵琶湖周航をしばらくぶりに実施する予定との話を伺いました。OB会の中でも琵琶湖周航の伝統が途絶えていることに懸念が示されていた中で、現役部員から自発的に是非実施したいとの声が聞こえてきました。とても良いことだと思います。私も、過去に複数回周航に参加して、とてもよい思い出となりました。ただ、一度とても怖い思いをしました。教訓？といえば大げさになりますが、ほんの少しでも旅の安全の足しになればと思い、その時のことを思い出しながら書いてみたいと思います。かなり記憶も曖昧になっているのでメンバーなど間違っているかもしれませんがご容赦ください。

時は私が薬学研究科 M2 の 2002 年、9 月上旬だったと思います（すでにこの時点で記憶が曖昧、、、）。この年は右回りでした。全日参加したかは覚えていないのですが、マキノから海津大崎にかけて陸上班を担当したことは覚えているので遅くとも 3 日目以降は参加しました。表題の怖い思いをしたのは 4 日目の午後、彦根の犬上川河口付近から 4 日目キャンプ地である長命寺をめざす行程です。使用艇は先輩方のご存じの古い木製のペア艇でしたが、すでに老朽化で出航できたのは 2 艇のみでした。それまでの琵琶湖周航は 3 艇体制だったので少し不安があったのを覚えています。これに陸上班として自転車 2 台（2 名）が伴走、残りは車でキャンプ地に向かいごはんの準備をするという体制でした。漕ぐメンバーは、新居田（カヤック、2000 年主将）、和田森さん（ヘルプで参加してくれた同女 3 回生、カヤック）、古荘君（カナディアン、2001 年主将）、坂井君（カナディアン

2002年主将)と、歴代主将中心のパーティでした。私と古荘君は引退後少し経過しているので体力面に少々不安があったでしょうか。午後出発してからはベタ風で、日差しも強くかなり暑くむしろ風よ吹いてくれ～という感じでした。

脱艇前後の行程図



周航はカヤックペア艇で行うのでダブルブレードに慣れていないカナディアン選手はカヤック選手と組むというのが基本でしたが、あまりにも風いでいたので中間地点で休憩後、カナディアンペアでもいけるんじゃないかということで、K-K (和田森—新居田)、C-C (坂井—古荘) で再出発しました。再出発後も順調に進みますが、図中の伊崎寺付近で新居田艇が浅瀬にひっかけてラダーを破損しました。その影響で左に曲がるのが困難になり、岸に沿って進むのに苦労し始めました。この時点でやや風が吹き始めましたがまだ全然漕ぐに問題ないレベル。伊崎寺を通過しこの先も岸沿いに進むべきですが、ラダーの効き具合と風のバランスから、図中太矢印で示した湾のショートカット方向に艇が進みやすい状況となりました。水上にいるとショートカット先の岬がとても近く感じ、波もそれほどではな

かったので私はショートカットを選択しました。行程前半のベタ風の感覚による油断だったと思います。今グーグルマップで距離を測ってみるとちょうど1キロくらいようです。いや、当時目視ではもっと近いと勘違いしていたな。それでショートカット方面に進み始めたのですが、ここが琵琶湖の恐ろしいところ、1/3ほど進んだ時点で強風高波となりこれはまずいとなりました。ショートカットを初めてから10分も経ってないはずですが、状況急変でした。これは岸に戻らないとだめだなと思い、C-C艇のほうを振り返るとなんと転覆している！カヤックに慣れていないことも影響していたと思います。沖乗り救助に向かいたいところでしたが強風高波でまったく近づくことができません。さらに悪いことに、この辺りは自転車が湖岸にアクセスしにくく陸上班の見守りがありませんでした。このままではどうすることもできないので、新居田艇は助けを呼ぶために岸に向かうと波間に漂う二人に告げ、岸に向かいました。ここでも高波のためなかなか艇が進まない。はやく救助を呼ばないと大変だと焦りながら必死で漕いでいると、小型モーターボートが小さく岸方向に見えました。よく見ると人が乗っているのが確認できました。距離はありましたが出せる声を出してアピールすると、幸運にも気が付き近づいてきてくれました。沖に我々の仲間がいるので助けてほしいと伝えると、ボート上のお兄さんはすぐに助けに向かってくれました。その直後に新居田艇は波が（ボロい）スプレーカバーを突き破り、大量に浸水後、転覆なく自沈、和田森さんともに湖に飛び込みました。すでに日は落ちかなり薄暗くなっていましたが、なんとか足がつくところまでは来ていたようでそのまま浜まで2人で艇とともに泳ぎ上陸できました。ほどなくして、モーターボートに救助された二人と、艇も岸まで運ばれてきました。お兄さんは名も告げず水上に去っていきました。あのお兄さん、当時お礼もちゃんとできませんでした。本当にもうありがとうございました。出会えてなかったら命を落としたかもしれません。上陸時の話では、新居田艇が岸に向かった後、古荘君と坂井君は艇を捨てて岸まで泳ごうとしていたそうです（正解）。しかしあの風波で自力で到達できていたかどうか、、、。話はあと少し続きます。当時、上陸地点の位置が正確に把握できておらず、携帯などの連絡手段ももってい

なかったので、とりあえず湖岸に沿って歩けばいいだろうと考え、上陸地点に艇は置いて翌朝回収することとし、山道を徒歩でゴールに向かおうとしました。この道が日没後は本当に真っ暗で何も見えない。一応舗装路だったので遭難することはないだろうと思っていたけども歩きながらかなり不安になりました。泳いで体力を消費していた上、びしょ濡れで1時間は歩いたと思います。T シャツ短パンにライジャケのみという軽装だったのでもう少し気温が低かったら低体温症の危険もあったかもしれません。しばらく歩いた後、前方から心配で探しに来てくれたマネージャー樋上さんのフージオーとの掛け声で(当時私の影響でこの掛け声をはやってみました。藤本君スマン)、ああなんとか帰ってこれたと安心したのが思い出されます。

陸上班の仲間には随分と心配をかけました。水上班では私が最上級生で、リードしなければならない立場でした。長命寺でのキャンプ時に3学年下の原君(2003年主将)から言われたことをはっきり覚えています。「水上班には新居田さんがいるからまったく心配してませんでしたよ。」と。原君ありがとう、こんな私でも信頼してくれて。しかしながら、今なら言えます、まったく大丈夫ではありませんでした。思い返しただけでも、いくつも判断ミスをしています。C-Cペアの選択(最初に転覆したのが漕力のあたるK-Kペアだったらもっと大変だった)、ラダー破損時に状況確認なしに漕行続行、陸上班不在時のショートカット選択、気象状況の見誤り、僚艇転覆時の救助の考え方(ある意味見捨てるを選択した)、緊急時の本隊への連絡方法を設定していなかったなどなど。反省しきりです。気温、水温が高かったこと、2艇同時に沈する事態とならなかったこと、本当に偶然にモーターボートのお兄さんに見つけてもらえたことが幸いして大惨事には至りませんでした。ショートカットを始めたときはまだ陽も明るいと感じていましたが、全員岸にたどり着いたころは日没後かなり時間がたっていたようですっかり暗くなっていました。体感的にはすごく短時間と思っていましたが、実際にはかなりの時間波風と格闘していたものと思われます。もういろいろ必死だったのでしょう。何にせよ、結果的に皆無事だったため穏やかに振り返ることができるのは幸せなことです。

社会人になってから、川の競技であるカヌースラローム、ワイルドウォ

ーターを始めました。スラワイの世界では、川は危険な場所であるとの認識のもと安全対策に気が配られており、競技規則や競技運営の面でカヌースプリントとはまた違った哲学を感じました。普段のスプリント競技は湖の静水上で行うものであり、川の競技のように、時に水に呑み込まれるという恐怖を感じることはあまりありません。しかしながら、いったん琵琶湖漕艇場を離れ北上するとそこは大自然のフィールドであり、ちょっとでも甘く見ていると痛いしっぺ返しを喰らうこととなります。リスク管理さえしっかりできていれば、その大自然の荒々しい勢いに揉みくちやにされながらもそれを楽しむことができます。

長々と失礼いたしました。本年の琵琶湖周航が無事に開催され、参加者の方々が貴重な経験を得られますように。

以上

(2024年5月)

琵琶湖周航における安全対策

小山 泰弘（1986年卒）

2024年6月15日に開催した現役部員とOB・OG会のオンライン交流会の中で、今年6年ぶりに琵琶湖周航を復活させる計画が山広主将から紹介されました。その後、オンライン交流会に参加されたOB・OG会メンバーより、事故を心配するご意見や安全対策を徹底させるべきとのご意見をいただきました。琵琶湖周航は、幸いにして、これまで大きな事故を発生させないで済んでいます。油断をすると危険な状況も想定され、もし事故が発生すれば多くの関係者に影響が及ぶことになります。6年ぶりの開催となると、現役部員の中には過去に琵琶湖周航を経験したことがある者がいないため、安全対策が十分になされるかが心配です。そこで、OB・OG会の役員会のメンバーで相談をして、P.21～P.22のような安全対策の提言をとりまとめて示すことにいたしました（文書中には琵琶湖周航の予定期間は9月3日から7日と記載していましたが、実際には9月4日から8日の期間に変更されました）。これまで、安全対策は、個人がそれぞれの考えに基づいて実施してきた面が大きいのと思われませんが、このように明文化して参加者で共有することで、より安全に対する意識が徹底するものと期待してとりまとめたものです。幸い、今年の琵琶湖周航でも大きな事故を起こさずに済みましたが、9月9日（月）にはびわこ成蹊スポーツ大学が実施したカヌー研修で学生約50人が遭難するという騒ぎがあり、全国的に大きく報道されました。今後実施される琵琶湖周航でも役立てていただくことを期待するとともに、普段の練習時にも同じような安全対策を明文化するように現役カヌー一部に働きかけていきたいと考えています。

（2024年9月）

2024年6月30日

琵琶湖周航における安全対策について

京都大学カヌー部 OB・OG 会

1. はじめに

京都大学体育会カヌー部では、かつてより5日間かけて2人乗りカヤックを用いて琵琶湖を一周するイベントを琵琶湖周航と称して実施してきた伝統があり、2024年度は9月3日(火)から7日(土)にかけて実施することを計画している。しかしながら、琵琶湖周航は2018年に実施して以来6年間開催されていないため、現在のカヌー部部員には過去の琵琶湖周航を経験したことのある者がおらず、対処すべき安全対策についての理解が十分でないことが懸念される。琵琶湖周航は、天候によっては命にかかわる事故につながる危険を伴うことから、OB・OG会として琵琶湖周航の実施に当たってとるべき安全対策を以下にまとめ、遵守するように強く推奨する。

2. 具体的な安全対策

- 常に2艇以上で漕行すること
- 艇には、十分な浮力体を装備し、仮に転覆しても沈まないようにすること
- 乗艇する者は全員がライフジャケット(固型式のものに限る)を正しく着用すること
- 転覆した際に並漕する艇の援助を受けて沖合で再乗艇できるスキルのない者は乗艇しないこと
- 滋賀県に強風注意報が発表されている間は漕行しないこと
- アメダス(大津、南小松、今津、長浜、彦根のうち近い順に2か所)の風速を確認し、瞬間風速7m/s以上の強風を記録した場合、その後1時間は漕行しないこと
- 日没1時間前には漕行を終えること
- 岸から500m以内(瞬間風速3m/s以上の風速を記録した場合はその後1時間は200m以内)の区域を漕行すること
- 携帯電話を防水ケースに入れて乗艇する者全員が携行すること
- スプレーカバーが装着できる艇には装着し、コクピット内への波の侵入を防ぐこと
- 滋賀県に雷注意報が発表されている間は、日本気象協会が発表する雷レーダー(予報)を定期的に確認し、雷活動度が2以上になった場合には漕行せず、屋内または屋根のある場所で待機すること

- 体調がすぐれない者は漕行しないこと
- 飲酒をやめてから12時間は漕行しないこと
- 乗艇しない者を陸上に配置し、陸上から常に双眼鏡を使って漕行中の艇を監視すること
- 以下の備品を携行すること
 - 救助用ロープ
 - 飲料水と栄養補給・エイド
 - 手動式ビルジポンプ
 - 陸上に大きく手を振って合図を送る際の補助用の旗や布など

3. 事故発生時の対応

陸上からの監視中、漕行中の艇を見失った場合、2艇以上が転覆したことを確認した場合、1艇が転覆して並漕している艇から手を大きく振る合図があったとき、110番に通報して救助を求めること。漕行中の艇は、救助が必要と判断したときには陸上の伴走者に大きく手を振って合図し、救助を求めること。参加者が体調を崩して重篤な状態になった場合には119番に通報して病院への搬送を依頼すること。110番通報もしくは119番通報した場合には、カヌー一部部長、大学、保護者に連絡をすること。

4. 最後に

完全な安全対策はないことを肝に銘じ、常に状況を把握して的確な判断をするように心がけることが重要である。ひとたび事故が発生すれば、当事者だけでなく関係者にも影響があることをわきまえて安全対策に万全を期すように強く求める。また、カヌー一部部長には事前に計画を説明し、了解を得た上で実施すること。

以上

1990年代に寄贈いただいた艇のこと

小山 泰弘（1986年卒）

過去の河奴を読み直してみているところ、創部 50 周年記念誌の最終ページに過去にカヌー部が購入した艇についてまとめたリストがあり、1992年に「(故) 清水さんのご遺族より寄付 紫清・紫水?」、1993年に「(故) 高木先生のご遺族より寄付 TAKAGI 艇」と記載されていたことに目が留まりました。清水さんは、1990年9月に若くして命を落としました私の1年後輩です（平成2年版河奴の後藤会長と藤田部長の寄稿をご参照ください）。以前、最小幅の規定があった頃の規格で製造された艇で今では使用されなくなったものは処分してしまったということを知っていたので、これらの艇がまだ艇庫に保管されているかどうか気になっていました。そこで、まず2024年7月に艇庫に行った際に当時の主将の山広さんに知っているかを聞いてみたところ、知らないとのことでは残っていないと思った矢先、練習を終えて片付けをしている艇の中に後部デッキにTAKAGIのアルファベットがデザインされたK-1艇を発見しました。



TAKAGI 艇

一方、このときには、清水さんのご遺族から寄贈いただいた艇のことは判明しなかったのですが、幹事の久保さん（1996年卒）から米山さん（1994年卒）、鳥井さん（1995年卒）に連絡をとっていただいたところ、艇の正しい名前は紫水（緑色のK-2艇ウッドペッカー）と清碧（薄い水色のC-1

艇 SABRE) であることを教えていただきました。そこで琵琶湖周航最終日の9月8日に再度艇庫に行った際に再確認したところ、これらの2艇を発見できました。米山さんにもこのときに撮影した写真を確認いただいて、間違いなさだろうとのことでした。今後、この2艇についても TAKAGI 艇と同じように艇に名前を書いて、ほかの艇に紛れてしまうことがないようにするため、10月14日のドン・ドッジ・レガッタの終了後、スプレーラッカーで艇の先端に名前を入れました。



紫水 (K2) と清碧 (C1)

清水さんからの艇の寄贈については、平成2年版の藤田部長のご報告に詳しく書かれていますが、藤田部長が清水さんのご両親宅に弔問された際、本人は大変「カヌー」を愛し、京大カヌー部に非常な愛着を持っていたことをお聞きになり、また本人の思い出を形として残したいと50万円の寄付をいただいたとのことで、当時の部員と相談をして彼の名前入りの艇を2艇購入されたという経緯だったようです。ドン・ドッジ・レガッタの終了後に名前を入れた艇を囲んで、そのことと高木先生のことを現役部員のみなさんにお話しさせていただきました。今後、これらの艇を大切に乗り継いでいってくれるものと思います。

(2024年10月)

ストレッチャー考と C2・C4 必勝 (?) 法

小山 泰弘(1986 年卒)

ストレッチャー考

日本でカヌースプリントに関わっている方はほぼ例外なくあのカヤックを漕ぐときに足を置く場所のことをストレッチャーと呼びます。ところが、国際カヌー連盟の競技ルールや海外の文献では Stretcher と書いてあるのを見たことがありません。そんなこともあって、前回の河奴で書いた「カボックの謎とイルミの謎」の最後に、日本でだけ通じる誤用ではないかと疑っているということを書きました。その後調べていたところ、ボート競技（今ではローイング）では、足を固定する板をストレッチャーと呼んでいることがわかりました。ボートでは、海外でも Foot Stretcher または単に Stretcher と呼んでいるようです。足を踏ん張る板なのに、どうして「伸ばすもの」という意味の単語で呼ぶのかは感覚的によくわかりませんが、日本のカヌースプリントの限界でストレッチャーの用語が定着したのはどうやらボート競技の方から伝わったためではないかと思われまます。カヌー競技を日本に導入する際、海外の艇を参考にして国内のボート競技用のボート製造していた会社をお願いしてカヌーの競技艇を製造してもらったということを知ったことがありますので、そのときにストレッチャーの名前が定着することになったのではないかという気がします。日本人同士で会話するときにはストレッチャーと呼ばないでフットレストと呼ぶのはなかなか勇気がいりますが、海外の選手と会話するときにはストレッチャーと言っても通じませんので、気をつけましょう。

同じようなものに、ゼッケンがあります。ゼッケンとは日本の中では多くのスポーツ競技で定着していますが、外国では通じません。ウィキペディアによると、馬術や競馬で馬につける番号の布をドイツ語で「覆う」という意味のあるデッケン (Decken) と言うため、それが訛って日本で使われるようになったなどの説があるそうです。外国の選手と話すときには Bib

(ビブ) もしくは Bibs (ビブス) と言いましょう。



C2・C4 必勝 (?) 法

最後に、これまで誰にも言ったことのないひょっとすると画期的かもしれないアイデアを披露させていただきます。ペアやフォアといったチーム種目では、前を漕ぐ選手に後ろを漕ぐ選手がパドルをぴったり合わせて漕ぐのが常識ですが、これは果たして正しいのでしょうか？カヤックにしるカヌー（カナディアン）にしる、パドルのブレードを水中に入れて後ろに引くときに艇を加速しますが、ブレードを空中に引き上げている間は推進力がないので、艇は水の抵抗を受けて減速します。そのため、艇のスピードは加速と減速を繰り返します。カヌーでは減速する時間がカヤックよりも長くなり、速度の変化の幅も大きくなります。水の抵抗は艇の速度の2乗に比例して大きくなるため、せっかく2人ないし4人の選手が力を合わせて加速しても、推進力がない時間に大きく減速してしまうことになってしまいます。これに対し、前の選手と後ろの選手がパドルを漕ぐタイミングをずらして加速する時間を増やせば、トップスピードは遅くなりますが、減速する時間が減り、艇の速度の変動幅を小さくすることができます。結果として、平均速度はぴったり揃えて漕ぐよりも速くできる可能性があります。C2やC4では左右で漕ぐタイミングをピッチの半分ずらせばいいのです。K2やK4ではピッチの半分ずらそうとするとパドルが

ぶつかってしまいますが、K2 ではピッチの 1/4、K4 ではピッチの 1/8 だけ前とずらすようにすればパドルがぶつかる問題は回避できます。ただ、カヤックはパドルが空中にあって減速してしまう時間がカヌーに比べて短いので、C2 と C4 でより効果があるように思われます。

かつて、スキーのジャンプ競技では、スキーの板を揃えてジャンプするのが常識でしたが、V 字飛行をすると飛距離を伸ばすことができることがわかって、それ以降は V 字飛行が常識となりました。カヤックでも、スプーンパドルの登場で一足早く順応した選手が、順応が遅れた選手に比べて有利になった時期がありました。そんな漕法で速くなるはずがないとみんなが思っている間にいち早く会得するときと勝てるかもしれません。現役選手のみなさん、試してみてくださいはいかがでしょうか。



2024 年 10 月 14 日 ドン・ドッジ・レガッタ

(2024 年 5 月初稿、10 月改稿)

主将挨拶

主将 山広 健生

今年度のカヌー部主将を務めさせていただいております、経済学部4回生の山広健生と申します。

OB・OGの皆様におかれましては日頃からの多大なご支援、ご協力を頂きお礼申し上げます。部員一同邁進してまいりますので、これからも応援のほどよろしく願いいたします。

また昨年はクラウドファンディングを実施し、76万円の支援をいただきました。改めて感謝申し上げます。いただいたお金はコーチング費用、心拍計、パドル購入費、琵琶湖周航費に使わせていただきます。

今シーズン主将となり、チームで取り組んでいる事柄として「強い京大カヌー部」「伝統の復活」の2つを上げています。

昨年の関カレ、インカレでは、個人種目、フォア、リレー全てにおいて、思い描いていた成績を残すことができず、自分自身を含め部全体として悔しい思いをしました。プレイヤー長を1年間務めてきた身として非常に責任を感じています。ありがたいことに今年も昨年に引き続きプレイヤー長を務めさせていただいていますが、私は現在の京大カヌー部が全国で唯一監督、経験者ともにいないことや、コロナで技術伝承が途切れてしまったことを問題であると捉え、「強い京大カヌー部」を取り戻すため、プレイヤー長としてカヌーに対する理解を深める、さらに知識や技術を外部から得たいと考え、様々な新しいことに挑戦してまいりました。今年新たにオーパルさんの学生との合同練習、同志社大学との毎週の合同練習、そしてカヌーホームの尾野藤さんから2日間にわたりコーチング指導を受けました。私自身入部して初めて知る知識や、適切な漕ぎのアドバイスを受け、非常に良い経験になりました。さらにチームとしても「勝利」に向けて、高いモチベーションを持って今シーズンの大会に臨んでいきます。

「伝統の復活」に関しましては、コロナにより途絶えてしまった京大カヌー部の伝統行事や他大学とのつながりを、それ以前の姿に戻したいという

個人的な思いから取り組んでいます。多くの OB・OG の方々から、昔のカヌー部の話をお聞きし、60 年間にわたって受け継がれてきた素晴らしい伝統を途絶えさせてしまうことに非常にもったいなさを感じていました。さらに数少ないカヌーを志している大学同士の交流は刺激になると考えています。そのため長距離選手権への参加、早朝練習の復活、琵琶湖周航の復活や、途絶えていた関学との交流レク、神戸大学との合同練習、そして京選への京都大学応援団の招致など様々なことの復活に成功しました。しかしいずれも私一人の力では挑戦し、成し遂げることはできませんでした。同期プレイヤーがゼロになっても、3 年間支え続けてもらい、自分が部活を続けている一番のモチベーションとなっているマネージャーの 2 人、入部して 1 年でプレイヤー長となり、右も左もわからずない中、たくさんの助言や協力をしてくれ、部の運営を手伝ってくれた後輩プレイヤー、そして金銭面、知識面、ジュニア練習の手伝い、複数人種目で部員とともに大会にでてくださいるなど、様々な支援をしていただいている OB・OG の皆様のおかげです。

私はあと引退まで 3 か月ですが、個人としてはインカレへの出場を目標に掲げています。また部としては仲がよく、活気のある雰囲気にしていきたいと思っています。そのためには部員一人一人との会話を大切に、そして真摯に向き合うことが大切だと考えています。そして今後強い部活を作っていくための基盤づくりに邁進していきたいです。伝統を重んじながらも、新しいことに部としてどんどん挑戦していき、チームを成長させていきたいです。

今年はコロナも落ち着き、OB・OG の方々と現役の交流の場も以前より増えると思われま。6 月 15 日のオンライン交流会や、10 月 14 日のドンドッグ、9 月一週目の琵琶湖周航や大会など多くの機会がありますので是非いらしてください。また毎日艇庫に部員がいますので、気軽に艇庫にいらしていただき、現役当時のお話や近況など、交流することが出来たら非常にうれしく思います。)

改めまして OBOG の皆様、本年度も京都大学カヌー部をよろしく願いいたします。

(2024 年 5 月)

主務挨拶

主務 森 咲弥

昨年に続きまして、2024年度カヌー部主務を務めさせていただいております、4回生マネージャーの森咲弥と申します。所属は農学部の森林科学科で、森林生化学研究室です。

OB・OGの皆様におかれましては、日頃より現役生の活動へのご理解及びご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

特に昨年度は、新たにクラウドファンディングなども実施させていただきましたが、暖かいご支援をいただき、改めてOB・OGの皆様との繋がりを感ずることができました。その他にも頂いた寄付金につきましては、今年度の遠征費や活動環境の改善などの費用に充てさせていただきます。重ねてお礼申し上げます。

さて、私は河奴に寄稿させていただくのは3度目になり、いよいよ4回生になったことを実感せざるを得ません。私事ながら、引退まであと4ヶ月を切った今の心情について書かせていただこうかなと思います。

私が2回生当時の先輩方が引退されてから、マネージャーは私と同期の怜奈ちゃんの2人きりになってしまいました。それまでは分担していた料理とビデオも、2人で両方をこなすことになったうえ、各々主務とマネージャー長を2回生にして背負うことになりました。右も左も分からず仕事が滞る私に対して、いつも優しくてしっかり者である彼女は本当に頼りになりました。業務的、そして精神的にも怜奈ちゃんの優しさと計画性に何度救われたことか分かりません。どんな時でも私の話を聞いて、一緒に考えてくれる彼女がいたから、私は今まで部活を続けていくことができました。いくら感謝しても足りませんが、到底書き表すことは出来ないので閑話休題といきます。

新体制になった去年の秋から今まで、色々なことがありました。特に、最上回生のプレイヤーは現主将の山広くん1人しかおらず、相当な重荷を背

負わせたに違いありません。そんな中でも後輩プレイヤーとのコミュニケーションを欠かさず、抱えた仕事をこなしながらも朗らかな山広くんのことを、後輩皆が心から慕っているように思います。マネージャーにも積極的に声をかけてくれて、真摯に話も聞いてくれます。部活の事務的な面だけでなく、現在の風通しが良く明るい雰囲気も彼の運営努力があつてこそであり、感謝の念に堪えません。また、山広くんの築いた良い関係性があるからこそ、部活に来ることを心から楽しめる人が多く、実際に現プレイヤー全体のカヌーへのモチベーションは殊更に高いように思います。未経験者しかいない今の京大カヌー部ですが、皆がカヌーに思う存分に集中し、楽しめるようにサポートできたらいいなと強く思う今日この頃です。私自身も今がこれまでに1番部活を楽しめていますし、今のカヌー部がとても好きだなあと 생각합니다。

たくさんの新入部員で賑やかになったカヌー部ですが、自身の引退まであと3ヶ月少しであることが寂しいです。今までとても長かったようで、あっという間でした。きっと夏の大会までも、思っているよりもずっと短いんだろうなと思います。マネージャーとして、主務として、できることを模索して全力を尽くしつつ、現役部員でいられる時間を大切に過ごしていきたいと思います。

長くなりましたが、最後まで精一杯頑張りますので、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

(2024年5月)

カヌー部が大好き

藤本 航成

まずは、OB・OGの皆様方の厚い御支援により、部を様々な面で支えていただいていること、深く感謝申し上げます。

私はカヌー部が大好きです。個性的で魅力的な先輩方、同輩と過ごす濃い時間は、楽しい思い出で埋め尽くされており、大きな幸せを感じています。しかしカヌー競技の方はというと、楽しい事ばかりとはいかず、水の冷たさに凍える入部当初は辛かったですし、秋頃には成長の印が見えずなかなか練習に身が入らない時期もありました。ですが今は、着実に縮むタイムに進歩を感じるとともに、これからもさらに速くなれると確信しています。最後に、今年は沢山の新人部員を得ることができており、とても嬉しいです。上回生として責任感を持ち、常に努力する姿を見せたいです。

(2024年5月)

カヌーとの出会い

岡安 晴信

プレイヤーでカヤックをしております、農学部森林科学科3回生の岡安晴信と申します。私はカヌーとの出会いについて書かせていただきます。

私が最初にカヌーと出会ったのは、大学入学よりずっと前、小学生の頃に遡ります。私は家族旅行で福島県にある磐梯山（ぼんだいさん）の北側、裏磐梯（うらぼんだい）を訪れました。この裏磐梯には、五色沼と呼ばれる5色の沼や、かつての磐梯山の噴火によってせき止められてできた桧原湖（ひばらこ）といった、美しい自然であふれています。そして、この桧原湖で出会ったのが、レジャーカヤック、もといカヌーでした。今まで経

験したことのない水上をすべる感覚を味わいながら、大自然に囲まれたあの秘境を漕ぎまわるのは、とても胸が躍る体験だったことを覚えています。今思うと、あのころからどうやったらまっすぐ進めるのか、どうやったら父や兄より早く漕げるのかなどと考えていました。最近では、カヌー部に入ることはこの時点で運命づけられていたのではないかと思っています。あの桧原湖でもう一度カヌーを漕ぐのが一つの夢です。蛇足ですが、実は中学の頃に卓球部に入ったのもこの裏磐梯で初めて卓球に出会ったことがきっかけです。ひよんな出会いが人生を変えてしまうことがあるものだと実感しています。

そんなこんなでカヌーと出会い、約7，8年越しでカヌーに再開し、カヌー部に入り、日々練習に励んでおります。これまで2年間、素敵な先輩方や同期、後輩などと、OB OGの皆様方からご支援していただきながら練習に励んできました。この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございます。

カヌー部での残りの一年と三ヶ月は、結果で恩返しできるよう、全力を尽くしたいと思います。頑張ります？

(2024年5月)

部員紹介（役職は 2024 年シーズンのもの）

【四回生】

山広 健夫	彼は食べることにしか興味がない。1日 25 時間ご飯のことを考えている。最近はマネージャー歴代ご飯から、彼の 4 年間の「カヌー部人生フルコース」を選出することに頭を悩ませている。
主将	
キャック	
経済	
広島学院高校	



森 咲弥	圧倒的な学業成績。料理の腕前はプロ級。バイト、フルート演奏など毎日大忙し。今年で 2 年目となる主務の仕事も完璧。部員からの印象はカッコいい、部活一の陽キャなどなど。彼女のハイスペックさには圧倒されるばかりである。
主務	
マネージャー	
農・森林	
茨木高校	



川崎 怜菜	カプリコを愛し、カプリコに愛された部のミステリアス娘。彼女の天然さによって艇庫にはお花畑が広がっている。今年の目標は”クールキャラ”になることらしいが、厳しいだろう。また全てにおいて優秀で、後輩からの信頼と尊敬は非常に厚い。
マネージャー長	
マネージャー	
工・地球工	
宮崎西高校	



【三回生】

岡安 晴信	食事へのストイックさは群を抜いており、カヌー部不動のエースである。吉田寮のヒッチレース、自衛隊体験への参加などアクティブに生きることをモットーにしている。新生の息吹が大好き。あと声がとにかくでかい。
副将・学連	
カヤック	
農・森林	
東京学芸大学附属高校	



福永 健太	筋トレを愛し、日々ストイックにジムに通っている。新歓隊長として多くの新入生を入部に導き、カリスマ性があらわになりつつある。サッカーとメンズコーチが大好物。
トレーナー	
カヤック	
農・資源生物	
熊本高校	



森川 宏亮	カヌー部のゆるキャラ。いつもグネグネクネクネしている。入部以来癒しを部に注入し続けている。また艇庫最強の棋士でもある。君の心に王手！
副務	
カヤック	
工・地球工	
光泉カトリック高校	



【二回生】

楠井 隆	唯一のカナディアンとしてカナダの一部の伝統を守り続けている。ところどころ抜けているところがあり、とにかくおもしろい。しかしそんな自分を変えたいという向上心を常に持っている。様々な人と関わり、様々な知識を吸収し、人間としての完成度が日に日に増していることが微笑ましい。
学連	
カナディアン	
工・電電	
旭丘高校	



栗島 大和	爽やか、愛想がいい、好き (by 森川) たまにデリカシーがない (by 藤本) だそうだ。非常な魅力的な男だ！
トレーナー	
カヤック	
文	
旭丘高校	



藤本 航成	圧倒的ノリの良さ、愛されキャラとして先輩からかわいがられている。ネットミームが大好きで、ついつい艇庫で口ずさんでしまい自己嫌悪に陥ってしまうことが悩み。
洗濯機大臣・レク長	
カヤック	
理	
神戸高校	



【一回生】



荒尾陽介	理学部に所属する彼は、人一倍、いや10倍ほど勉学に熱心である。ときには森
ホームページ	
安藤諒ク	乗艇先蠶心数差を教なてい筋ト練習藝事
嵯連	
明和高校アン	みられるな直事弟は、You間味に益米義に関
経済	
岐阜高校	する動画を見るなど、彼の将来はきっと 明るい。



京田尚樹	常にテストステロン、筋肉について考えて生きている。太く、逞しい腕、隆々とした大胸筋、海のように広い広背筋、強靱な脚を目指し、日々トレーニングに励んでいる。
YouTube	
カナディアン	
工・物理工	
北野高校	



坂井一稀	今年の夏を制した男。最近イタリアンレストランでアルバイトを始め、艇庫で中々慣れないヘアセットをする様子が見られる。カチカチのオールバックが似合う男を目指す。
クラブ旅行担当	
カナディアン	
工・物理工	
六甲学院	

田中伸弥	同期、先輩から”伸弥さん”といわれ親しまれている。真面目かつフレンドリーな性格で、将来はお役所でお偉いさんになっている姿が容易に想像できる。カヌーもどんどん速くなり、将来が楽しみだ。
YouTube	
カヤック	
工・地球工	
天王寺高校	



南亮汰	"グネグネ"の祖。この言葉は艇庫でしか通じないが、要は床でグネグネすること。パンダさん柄のかわいらしいフリースを着て、彼のグネグネは留まることを知らない。マリオカートがプロ並みに上手い。
学連	
カヤック	
工・理工	
四日市高校	



吉中凌	経済学部のさわやかボーイ。同期の誕生日をちゃんと祝うなど、人格に優れる。常に輝かせる笑顔があまりに若々しく、主将にはまぶしすぎるようだ。でもその笑顔には裏があるとかないとか・・・
ブログ	
カヤック	
経済	
桃山学院高校	



上杉美結	いつもニコニコしていてかわいらしい。笑顔が素敵すぎて、とある部員は彼女が
インスタ	



マネージャー	ビデオを撮っているところを見ると漕ぐのが1.2倍くらい速くなるとかならないとか。
京女 現代社会学部	
豊岡高校	

岡村麻央	お洒落で、綺麗な髪でボブをよく似合せている。アイドルなど、かわいらしいものが大好き。表情が豊かで話していると心が安らぐ部員多数。
インスタ	
マネージャー	
京女 現代社会学部	
鳥取東高校	



越智夢生	いつも大きな笑い声を艇庫に響かせている。多趣味で、阪神ファンだが野球がオフシーズンになると何を見るか注目である。はじめは意外だったが、大学にあまり行かないキャラが浸透しつつある…
会計	
マネージャー	
経済学部	
立命館高校	



寺田麗理	京大ではかなりレアな工学部女子。勉強にも熱心で、1回生の中でもかなり優秀そう。ダンスが好きで、彼女のストリートファッションからは何となく想像がつく。そのうちバックダンサーとかしているかも。
Twitter	
マネージャー	
工・物理工	
大教大平野高校	



戦績報告 (2023年6月～2024年5月)

京都府選手権 (6月24～25日 滋賀県 琵琶湖漕艇場)

1000m K4 4位 山広、岡安、福永、森川
500m JK2 1位 栗島、藤本
JC1 1位 宮司浩維

関西学生カヌー選手権大会 (8月8日～12日 兵庫県 音水湖)

1000m K4 5位 山広、岡安、福永、森川
500m JC1 3位 楠井隆
JC1 4位 宮司浩維
JK1 6位 栗島大和
JK1 8位 藤本航成

全日本学生カヌー選手権 (8月22日～27日 東京都 海の森水上競技場)

1000m K4 8位 山広、岡安、福永、森川
500m K1-Relay 8位 山広、岡安、福永、森川
JC2 3位 楠井、宮司
JK2 3位 栗島、藤本
200m JC1 2位 楠井
JC1 3位 宮司

関西カヌースプリント選手権 (11月3日～4日 滋賀県 琵琶湖漕艇場)

500m C2 9位 楠井、高橋(OB)
K2 8位 栗島、塩川(OB)
C4 4位 楠井、宮司、小澤(OB)、高橋(OB)
K4 3位 山広、岡安、福永、栗島

2023 Head of the Seta (11月11日～12日 滋賀県 琵琶湖漕艇場)

K1 11位 岡安晴信 35:48

- 12位 栗島大和 36 : 30
- 14位 山広健生 37 : 46
- 19位 森川宏亮 41 : 03
- 20位 藤本航成 41 : 09
- C1 8位 楠井隆 48 : 59
- K2 2位 福永、栗島 31 : 20
- 3位 岡安、森川 31 : 24
- 4位 山広、藤本 32 : 13
- C2 1位 楠井、宮司 48 : 28

全日本学生カヌー長距離選手権大会(2024年5月11日~12日 京都府 久美浜湾カヌー競技場)

10000mカヌーマラソン形式

- K1 37位 岡安晴信
- 56位 栗島大和
- 59位 福永健太
- 63位 藤本航成
- 66位 山広健生
- 68位 森川宏亮
- K2 21位 岡安、池端(OB)
- 23位 山広、森川

編集後記

最初の原稿募集からだいぶ遅くなってしまいましたが、「河奴」36号をお届けします。ご協力いただいたOB・OGのみなさま、現役部員のみなさんに厚くお礼申し上げます。原稿をいただいてから発行までの間に幹部の交代があったため、主将挨拶や主務挨拶は幹部交代前の主将の山広さんと主務の森さんの挨拶となっています。戦績も2024年5月までのものを掲載しています。2024年6月以降の戦績は次回の河奴に掲載したいと思います。また、これまで掲載されていた会計報告は、掲載時期が合わなかったこともあり、掲載しませんでした。2024年の総会は2024年3月31日に開催し、そこで2023年度の会計報告をしております。総会終了後に会計報告を一部修正して、総会資料とともにグーグルドライブでアクセスできるようにしてメーリングリストでご案内させていただきました。今後も同様にしたいと考えておりますので、会計報告や総会資料はそちらのほうをご確認ください。

2024年（令和6年）11月
水嶋勇、小山泰弘

河奴36号

2024年11月17日発行非売品

発行 京都大学体育会カヌー一部OB・OG会
代表者 小山 泰弘